

とうべつ

議会だより

No 155

平成20年11月1日発行



「議場って、なにをするところなの？」
生活科学習「町探検」で役場庁舎の見学中に
初めて議場を訪れた当別小学校2年生の児童たち

第4回 定例会

平成20年9月

議案審議	2~3
------	-----

決算審査	4
------	---

道内所管事務調査	5
----------	---

クエスチョン? 一般質問	6~9
--------------	-----

十五議案全てを原案のとおり可決

大澤勉氏^(七)、白井応隆氏^(四)が教育委員会委員に再任

平成二十年第四回当別町議会定例会は、九月五日から十二日まで（九日～十一日は休会）八日間の日程で開催されました。本定例会の初日、議会は平成二十年九月三十日をもって任期満了となる大澤勉氏と白井応隆氏の教育委員会委員への再任に同意したほか、七つの増額補正予算と四つの条例制定など全部で十五の議案を可決しました。

大澤 勉 氏
(当別町六軒町在住)



白井 応隆 氏
(当別町対雁在住)



補正予算の審議では、当別町一般会計の歳入歳出をそれぞれ一億二百九十四万四千円増額、国民健康保険特別会計の歳入歳出をそれぞれ五十七万九千円増額、老人保健特別会計の歳入歳出をそれぞれ四百五十六万七千円増額、介護保険特別会計の歳入歳出をそれぞれ九百五十一万六千円増額、下水道事業特別会計の歳入歳出をそれぞれ一億七

こんなことが
決まりました

千八百五十万円増額、農業集落排水事業特別会計の歳入歳出をそれぞれ三千七百五十五万二千円増額、水道事業会計の資本的支出を八百二十四万四千円増額するとし、補正予算案を原案のとおり可決しました。

■大澤教育委員会委員の任命について

■白井教育委員会委員の任命について

■平成二十年当別町一般会計補正予算(第二号)

■平成二十年当別町国民健康保険特別会計補正予算(第二号)

■平成二十年当別町老人保健特別会計補正予算(第二号)

■平成二十年当別町介護保険特別会計補正予算(第一号)

■平成二十年当別町下水道事業特別会計補正予算(第一号)

■平成二十年当別町農業集落排水事業特別会計補正予算(第一号)

■平成二十年当別町水道事業会計補正予算(第一号)

■一般社団法人及び一般財団法人に関する法律等の施行に伴う関係条

例の整理に関する条例制定について

■地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例制定について

■当別町都市計画税条例の一部を改正する条例制定について

■当別町学校給食センター条例の一部を改正する条例制定について

■当別町土地開発公社定款の変更について

■北海道市町村備荒組合規約の変更の協議について

請願・陳情
審査付託の件

本定例会の初日に二件が提出され、一番は産業建設常任委員会に付託され、二番は本会議において採択されました。

なお、二番は本町の農業六団体より請願され、農業政策の緊急性を要することから定例会閉会後

に農林水産省等へ意見書として提出しました。

■一番 産業建設常任委員会付託

○『協同労働の協同組合法』(仮称) 早期制定を求める意見書 採択のお願い

《団体名》

北海道労働者協同組合
ワーカーズコープ札幌

代表 現田 友明

■二番 本会議付託

○生産資材価格高騰対策・国内農業生産基盤の確保実現に向けた請願書

《団体名》

北石狩農業協同組合
代表理事 組合長

川原 博志

株式会社 辻野商店

代表取締役社長

辻野 浩

当別土地改良区

理事長 山田 智

篠津中央土地改良区

理事長 武田 八郎

中新土地改良区

理事長 田畑 富美男

当別町農民同盟

委員長 堀 梅治

(紹介議員)

市川 正 神林 俊一

岡野喜代治 小早川孝男

白杵 英男 稲村 勝俊

議員提案

定例会初日、二件の議員提案が上程され、採決の結果、ともに全会一致で可決されました。
 なお、第二号は閉会後に国土交通省等に意見書として提出されました。

■議員提案第一号

○当別町議会会議規則の一部を改正する規則の提出について
 提出者 後藤 正洋

【原案可決】

■議員提案第二号

○道路整備に必要な財源の確保に関する意見書の提出について
 提出者 後藤 正洋

【原案可決】

選挙結果

定例会初日、地方自治法第二九一条の五及び北海道後期高齢者医療広域連合規約第八条により北

海道後期高齢者医療広域連合議会議員選挙(補欠)を行いました。

(選挙結果)

鶴居村議会議員

松井 宏志 15票

余市町議会議員

渡辺 正治 2票

決算審査

定例会初日、議会は、議長、議会選出監査委員

を除く全議員で構成する『平成十九年度当別町各会計決算審査特別委員会』を設置し、認定第一号「平成十九年度当別町各会計歳入歳出決算認定について」、認定第二号「平成十九年度当別町水道事業会計決算認定について」を同委員会に付託しました。

委員長に岡野喜代治氏、副委員長に桑内雅彦氏が選出され、九月九日から十二日まで(十一日は休会)四日間の日程で開催し、平成十九年度の各会計決算を慎重に審査しました(関連記事四ページ)。

請願・陳情の審査報告

六月開催の第三回定例会で審査を付託されていた陳情書の結果が定例会初日に報告されました。

○総務文教厚生常任委員会(小野広実委員長)

「郵政民営化見直しを求める意見書」採択の陳情書 【不採択】

なお、柏樹議員より不採択に賛成できない立場の討論がありました。

○産業建設常任委員会(市川正委員長)

国に「働けば暮らせる」最低賃金実現を求める意見書採択に関する陳情書 【趣旨採択】

一般質問

本定例会での一般質問

は、九月八日に行われ、稲村勝俊議員、洞内真由美議員、小早川孝男議員、柏樹正議員の四名が登壇し、町政をたどりました。詳しくは、六ページから九ページに掲載しています。

議会のページ

(平成20年8月～平成20年10月)

H20・8月		9月		10月	
8・5	～6	9・1	～3	10・10	～15
8・7		9・5	～12	10・15	～21
8・8		9・9	～12	10・21	～22
8・12		9・17	～18		
8・19					
8・20					
8・27					
8・28					

総務文教厚生常任委員会道内所管事務調査(土幌町、富良野市) 山形県飽海郡遊佐町議会来町 産業建設常任委員会 総務文教厚生常任委員会 議会広報研修会(札幌市) 産業建設常任委員会 (JA北石狩) 産業建設常任委員会 総務文教厚生常任委員会 議会運営委員会 北広島市議会来町 平成20年第4回定例会(9日～11日休会) 平成19年度当別町各会計決算審査特別委員会(11日休会) 意見書提出(東京都) 議会広報特別委員会 三重県度会郡南伊勢町議会来町 総務文教厚生・産業建設合同常任委員会 議会運営委員会道内所管事務調査(羽幌町、鷹栖町) 議会広報特別委員会 大分県杵築市議会来町 産業建設常任委員会

平成19年度当別町 各会計決算を認定

《平成19年度当別町各会計決算表》

各会計		決算額(円)	各会計		決算額(円)
※ 一般会計	歳入総額	9181,625,826	農業集落 排水事業 特別会計	歳入総額	95,697,778
	歳出総額	9,014,152,223		歳出総額	93,345,513
	差引額	167,473,603		差引額	2,352,265
国民健康保 険特別会計	歳入総額	2,300,642,552	介護保険 特別会計	歳入総額	1,045,411,589
	歳出総額	2,453,120,947		歳出総額	1,025,306,628
	差引額	△152,478,395		差引額	20,104,961
老人保健 特別会計	歳入総額	2,297,738,498	介護サー ビス事業 特別会計	歳入総額	61,405,316
	歳出総額	2,258,883,307		歳出総額	59,088,475
	差引額	38,855,191		差引額	2,316,841
下水道事業 特別会計	歳入総額	1,828,070,569	水道事業 特別会計	収益的収入	426,272,933
	歳出総額	1,822,350,410		収益的支出	414,460,661
	差引額	5,720,159		差引額	11,812,272

※一般会計：特別会計に属さない、福祉や教育など町の基本的な施策を行うための会計で、主な収入に町税、地方交付税、国庫支出金等があります。

議会は、平成二十年第四回定例会を休会し、九月九日から十二日まで（十一日は休会）の四日間の日程で平成十九年度当別町各会計決算審査特別委員会（岡野喜代治委員長）を開催し、平成十九年度決算（参照：左記決算表）について慎重に審査した結果、議会から付託された二件の案件を原案のとおり、認定しました（詳細は広報とうべつ十一月号をご覧ください）。

なお、報告書は、下記の五人で構成する起草委員会（小野広実委員長）が作成しました。

平成19年度当別町各会計 決算審査特別委員会報告書

平成19年度当別町一般会計、国民健康保険特別会計、老人保健特別会計、下水道事業特別会計、農業集落排水事業特別会計、介護保険特別会計、介護サービス事業特別会計並びに水道事業会計決算について、平成20年9月9日、10日、12日の3日間に亘り慎重審査の結果、次のとおり決定したので報告します。

1. 審査の結果

- (1) 認定第1号 平成19年度当別町各会計歳入歳出決算
- (2) 認定第2号 平成19年度当別町水道事業会計決算

本各案件は、原案のとおり認定すべきものと決定した。

平成20年9月12日

議長 竹田 和雄 様

平成19年度当別町各会計
決算審査特別委員会
委員長 岡野 喜代治



岡野喜代治委員長（写真中央）と
桑内雅彦副委員長（写真右）

起草委員会

委員長	小野 広 実
委員	市 川 正
委員	小早川 孝 男
委員	石 川 和 栄
委員	洞 内 真由美

議員研修会の報告

「とうべつ議会だより」の編集をしている議会広報特別委員会（臼杵英男委員長）の6名全員が8月19日、北海道町村議会議長会主催の議会広報研修会に参加してきました。

広報プランナーである和田雅之氏を講師に迎え、「議会報づくりと時代の潮流」と題して最近の新聞、雑誌などの編集傾向や紙面デザイン等の講義を受講しました。

広報委員一同、さらに読みやすい紙面づくりを心がけて参りますので、これからもご愛読いただきますよう、宜しくお願い致します。



議会広報研修会（札幌市）

道内所管事務調査の報告

《総務文教厚生常任委員会》

総務文教厚生常任委員会では、8月5日から6日にかけて、十勝支庁管内土幌町と上川支庁管内富良野市を訪問し、研修を行いました。

土幌町では、十勝管内初となる認定こども園「なかよし」を視察し、幼保一元化に係る子育て支援サービスの取り組みなどの研修を行いました。

また、「クリーンふらの計画」を策定し、環境負荷の少ない廃棄物処理に取り組んでいる富良野市ではゴミ問題の現状や課題について、活発な意見交換を行いました。



土幌町認定こども園「なかよし」



↑富良野市役所にて

《議会運営委員会》

議会運営委員会では、10月21日から22日にかけて、苫前郡羽幌町と上川郡鷹栖町を訪問し、議会運営と議会改革（活性化）に関する最近の取り組み状況等についての研修を行いました。

羽幌町では、一般質問に一問一答方式を採用し、町長答弁後の再質問は30分以内に制限するなどの議会運営を行っているとのことでした。

鷹栖町では、議会広報で掲載した一般質問の一部がその後、どのように町政に反映されたのか、「一般質問その後を追跡」と題して町民に報告していました。



羽幌町役場にて↑



↓鷹栖町役場にて

一般質問

アライグマの駆除対策強化について



稲村 勝俊 議員

町長 J Aと協力して被害の減少に努める

問 繁殖力が強く、根絶が容易でない野生化したアライグマは生息域、生息数の拡大に伴い、農業被害の深刻化、生態系破壊の懸念など、北海道内で大きな問題になっている。当別町内でもほぼ全域に生息し、拡大の傾向にあり、スイートコーンやスイカなど多くの被害が発生しており、栽培をあきらめた人もいる。軽トラマーケットなど安心、安全、新鮮な当別

ブランドをアピールしているが、人への感染症伝播の恐れが懸念され、風評被害防止などのためにも駆除対策の強化が必要と考える。

アライグマは、外来生物法に基づき特定外来生物に指定され、積極的に削減すべきと国が認定した有害生物で、当別町でも平成二十三年三月三十一日まで箱わなによる捕獲の防除が認められている。さらに鳥獣捕獲許可取扱要領、要綱等を定め、被害防止計画を立て、適切な捕獲と安全に関する知識、技術を講習し、従事者台帳に記載されることにより狩猟免許非保持者も防除に従事できる。直接被害を受けている農家や住民が防除に取り組むことができ、防除強化になると考える。

被害防止計画など総合的な対策について伺う。

町長 アライグマの生息が確認されている道内の市町村は、平成十年に五八だったのが、今年は一八に拡大し、捕獲数も平成十四年の一千頭から十九年には二千頭以上に



ペット飼育のモラルが問われる

なっているとのことであり、急速な繁殖により農業被害が増えている状況にある。

当別町では、平成十三年から農業被害が確認され、箱わなによる駆除を実施しており、現在、J A、猟友会や関係団体と連携を取り、協議会の設立や被害防止計画の策定に向けて協議している。

今後、農業被害の情報収集を行い、J Aを中心に積極的に農業被害の減少に取り組んでいきたいと考えている。

農地・水・環境保全向上対策の取り組みについて
問 農地・水・環境保全向上対策事業（以下、対

策事業）は、五カ年の予定で二年目になる現在、その効果を取りまとめる段階にあると考える。

当別町では、特に農村環境活動に力を入れ、協議会を設立し、町が事務局として参加して景観向上活動の強化に向け、大きな成果が得られている。

新しい総合計画の中でも示されている農業振興のための農地の適正な保全や環境保全型農業の実践、地域ブランドの付加価値、美しいまちづくりの推進など、事業継続によってより効果が期待できると考えるが、平成二十一年度以降の対応について伺う。

町長 農村景観をきれいにして、美しい農村で生産した新鮮な農産物という付加価値を生み出し、農家の所得向上による安定的な経営と農村地域の活性化を図ることが町の経済発展に必要不可欠なので、対策事業は成功させなければならぬと考えている。

コンクリート資材の整理、野良生え木の伐採処理や放置廃屋の解体など、



美しい農村景観のための廃棄物処理（東裏）

徐々に対策事業の効果は上がってきていると考えている。

美しいまち当別をみんなで作る条例にもあるとおり、町民一人ひとりの取り組みが重要であり、積極的な取り組みをしている地域には平成二十一年度も継続していくことを視野に入れ、様々な意見を参考にして町の姿勢を確定したい。

発達障がいの早期発見、早期支援
に五歳児健診を



洞内真由美 議員

町長 現時点での実施は、
考えていない

問 社会性の障がいとも言われるADHDや学習障がいなどの発達障がい、集団生活に入る前の三歳児健診までには気づきにくいと言われている。三歳児健診で見過ごされていた発達障がいの疑いのある子どもを新たに発



ゆとろでの1歳8ヶ月・3歳児健診

見できる五歳児健診の有効性が報告され、平成十九年から文部科学省の発達障害早期総合支援モデル事業として全国27の地域で実施、研究されている。

また、健診後は、保健師などが保護者と子どもに継続的にかかわっていく必要がある、保健、福祉、医療、教育などの機関が連携し、子どもの発達段階に応じたきめ細やかな相談支援体制の充実が求められている。

当別町においても五歳児健診を行うことが必要であり、相談機能をより充実させるべきと考え、町の考えを伺う。

町長 発達障がいについては、集団生活をするこ

時点では五歳児健診は考えてはいない。

また、保護者への相談機能の充実については、ゆとろの窓口で相談、子育て支援センターにおいて24時間電話で相談を受けている。更に、子どもの発達に関する専門家に

読書環境の充実を

問 子どもの読書活動の推進のため北海道教育委員会では、「次代を担う子どもの心をはぐくむ北の読書プラン」を平成二十年三月に策定したが、当別町における子どもの読書活動推進計画策定について

町民が自主的に行っている活動との連携など、図書館のボランティア活動への支援の充実が必要

であるが、いかがか。また、平成十五年以降12学級以上の大規模校への司書教諭の配置が義務づけられたが、教科担任や学級担任をしながら

らの兼任であることが多く、司書教諭の本来業務に時間がとれない状況にある。

図書館の本や資料を十分に活用するためには専門家として情報提供ができる司書が必要で学校図書館及び公共図書館への専任司書の常勤が必要と考えるが、いかがか。

教育長 子どもの読書環境の充実のため、参加が具体化しやすい町の規模であり、各機関、団体、ボランティアの方々との連携協力、さまざまな工夫の持ち寄りで可能性を広げている段階である。

当面、読書活動推進計画を固めるよりも、読書活動充実の可能性を広げ



西当別コミュニティセンターの図書室

る取り組みを進めていきたい。これまで大きな役割を果たしてきたボランティア活動の実績を踏まえ、今後も連携をとりながら必要な支援などについて話し合っていきたい。司書教諭の定数外の配置をこれまでも国に要望してきたが、実現していない。町単費での配置は財政的に大変厳しい状況にあり、引き続き国、道に要望していく。当面司書教諭ができるだけ多くの時間を図書館業務に關

軽トラマーケットの継続を期待する



小早川孝男 議員

町長 今後も継続できるように
検討していきたい

問 八月三十日の札幌市厚別区市民交流広場での軽トラマーケットは、大変盛況で、その様子は後日テレビでも特集番組で放映されるほどであった。今回のイベントでは、札幌市がチラシの配布などの協力をしてくれたようだが、可能性を秘めた大成功を今後もどのように持続させ、活かせるか、誰しもが感じたことだと思ふ。一過性のイベントで済ませてしまふのでは、生産農業に何ら寄与することにはならない。

次回からは、行政主導ではなく、農家の方々が中心となって定期的に農産物の市場を開催できるように期待している。決まった時期や曜日に多くの

札幌市民や当別野菜生産者達のために今回の場所のようなところを使うことができないのか、伺いたい。

町長 当別町の基幹産業である農業の振興を図るためには、札幌に近いという地域の特性を活かし、優良な食品を供給する役割を担うことが重要だと考えている。

そうした考えから、上田市長を始め札幌市と何回も意見交換などをし、会場の確保、チラシやポスターなどのイベントPRの協力をいただきながら、札幌市との連携で軽トラマーケットを開催で



大盛況の軽トラマーケット（札幌市厚別区）

きた。九月七日にも札幌の中心街の狸小路周辺において、当別の農産物のPRと販売を実施した。売る喜び、買ってもらう幸せを感じることが農家の生産意欲に大きくつながると以前から考えており、軽トラマーケットのような取り組みを継続していけるよう、今後も札幌市と協議・検討していきたい。

農業生産資材の

暴騰について

問 石油関連から始まった農業における生産資材の暴騰は、いかに海外の要因によるものといえど

も、国政の無策ぶりが40%の食料自給率を更に危うくさせている。JAの試算によると現時点で十アール当たり六千円強、町内五百戸の販売農家一戸当たりすると九十万円として、総額で四億五千万円以上の資材費になる。町民税が九百万円から一千二百万円である当別農業から考えると、住民税率10%として、四年分から五年分の税額が一年で消えていく計算で、農業所得がゼロ、それが四、五年と続くのと同じことである。

先般、町内農業関係六団体から議会宛に請願書が提出されているが、持続可能、再生産可能な農業を堅持するため、北海道町村会副会長の要職にもある泉亭町長の考えを伺う。

町長 日本の食糧基地と言われている北海道では、北海道政が農政にもう少し力を入れなければならぬ時代になったのだと思っているが、道政に頼る前に、まず我が町でとれる農産物をどのように消費者につないでいくか



高騰が続く肥料などの生産資材（JA北石狩）

ということについて、真剣に議論しなければならぬと考える。

提出された請願書には、危機的と書いてあるが、野菜を売ってきても反応がなく、本当に困っているということであれば、単なる協議会ではなく、来年度予算要求に具体的につながるような、法人化を含めて色々と検討できる会議をつくりたいと考えている。

真剣に話された議論が多くの農家や農家以外の方々に伝わっていかねばならないと思っている。

「住民の足」の確保を！



柏樹 正 議員

町長 地域に根ざした効率的な
バス運行を確保したい

問 高齢者や学生などの身近な足であるバスの安定的な運行は自治体の対策が必要である。

町長 当別〜江別のバス路線（以下、当江線）は江別市立病院へ通院するため高齢者などにとって必要である。昨年秋に当別町が行な



高齢化社会では公共交通の役割は一層大きくなる

ったアンケート調査によると、生活環境の項目の中で『公共交通の整備』に対する満足度が40%と最も低く、福祉・医療の分野では『医療環境の整備』『緊急時の医療体制』に対する満足度が低く、重要度は最も高い回答となっている。

最近の医師不足と当町からの市立病院の利用状況からも、当江線は継続すべきであり、住民の願いにも応える方策のひとつではないか。

町長 生活交通路線維持のための継続努力を求め、町長の考え方を伺う。

町長 当江線は昭和十八年から運行を開始したが、利用者の大幅な減少によ

り赤字額が増加したの便数を減らすなどの合理化を重ね、現在に至っている。

沿線の町内会には、利用促進のお願いをするとともに、このまま利用者の減少が続くようであれば廃止を検討せざるを得ないという状況を説明したが、利用者の減少傾向は変わっていない。

平成十九年度の政策評価では「二十一年度以降の廃止はやむを得ない」という結果となり、江別市と協議したところ、市立病院の利用者を確保するため当江線を継続したいとの意思表示があり、当面は運行を継続することとした。

今後も利用状況を見ながら江別市との協議を継続し、地域に根ざした効率的なバス運行の確保に努力していきたい。

燃料・物価対策は

問 北海道の灯油価格は当別町のある販売店で昨年八月に七十六円／リットルだったが、今年八月には百二十六円と大幅な値上げとなっている。道内の



中小運送業などへの支援策も必要

価格に向けた対策や省エネルギー、石油代替に向けた対策などにより救済措置を図る方針である。町は、これらの制度の周知を図り、町単独事業の中小企業特別融資制度も活用してもらおうと、引き続き商工会などに活用を推進していく。

入札制度の改善策は

問 制度全般について検討されたのか、入札方式だけではなく、近隣市町村での制度に関わる検討状況や当町での今後の見通しが具体的に示せるのか、伺いたい。

町長 当別町ではこれまでも入札について、より透明性を確保し、公正な競争を確保するために関係部課長で構成する入札契約制度検討委員会が検討し、どんな方法が望ましいか、入札制度の改革に取り組んできている。町職員の入札に関する専門知識を育成するほかに入札審査業務の経験を有する道庁職員のOBなどの人材活用を含め、入札業務体制の整備を進めている。

町長 北海道では原油及び原材料等の価格高騰対策を検討するため対策本部を設置しており、既存の融資条件の緩和のほか、新たに国と連携して



ふれあい倉庫に並んでいる野菜

笑顔あふれる当別の野菜

本がいつぱい読める読書の秋。
学芸会に文化祭、イベントいっぱい、芸術の秋。
そして、おいしいものがいっぱい
の実りの秋。
かぼちゃに大根、じゃがいも、
キャベツ、玉ねぎ・・・今日の晩
ごはんは何にしよう。

毎日のことだけれど、やっぱり
頭を悩ませる（主婦ですから）。

さて、お鍋の中には当別の大地
で育った野菜たちがコトコト♪

野菜をみていると様々な笑顔が
浮かんでくる。

かぼちゃ、じゃ
がいもはほっこ
りした笑顔、キ
ャベツ、玉ねぎはまんまる笑顔。

おいしいお米はふっくら笑顔。
そんな、作り手の顔が見える野
菜を食べられる幸せ。

食の偽装問題が次々に発覚する
昨今、素性の確かなものを食へら
れる最高の贅沢！

幸せな笑顔と、天地いっさいの
恵みに感謝して、いただきます。

議会広報特別委員会
(洞内委員)

あ
と
が
き

私・の・好・き・な・幸・せ い・っ・ぱ・い・の・秋